夜の森に咲く

写真は『Days Japan』 2018 年 4 月号。写真・文は岩波友紀さん。

2011 年の福島第一原発事故で居住が制限された福島県富岡町。夜の森地区にある全長 2.2 キロの桜並木は、「桜のトンネル」として長く人々に親しまれてきた。この桜並木の大半は、未だ帰還困難区域に指定されている。事故から 7 年。桜は、今年も満開の花を咲かせるだろう。

こんな見事な桜の名所に人の姿がほとんどないことはとても奇妙であり、ここがまだ避難区域であることを嫌でも感じさせた。並木の端から 300 メートル歩けば、道を塞ぐバリケードにぶつかる。この再編で、避難区域は放射線量によって 2 つに分かれた。全長約 2.2 キロの桜並木のうち、この 300 メートルは住むことはできないが日中は立ち入りができる「居住制限区域」だが、その先は最も放射線量が高い「帰還困難区域」で許可なく入ることはできない。夜の森の桜並木は見えない放射線で分断された。

一部を除く避難指示が解除されてまもなく 1 年が経つが、富岡町の居住者は 3 月 1 日現在で震災前のおよそ 3 パーセント弱。町での生活を再開することは簡単ではないことを物語る。帰還困難区域は変わらず避難指示が続く。それでも故郷を取り戻すために懸命に動いている町民たちを少なからず知っている。

高い放射線があっても、人がいなくなってしまっても、花は毎年変わらず咲いてきた。それは目もくらむほどの凜とした姿だ。人間は自分たちで勝手に放射性物質を作りだし、自分たち自身に被害をもたらし右往左往してきた。桜の木はそれを横目に、この地で静かに生き、花を咲かせ続けている。

今年 6 月 24 日、富岡町夜の森地区に行った。下の写真は、その時に撮った。人のいない寂しげな並木をじっと見つめた。あたりは放射線量がまだ高かった。

翌日、福島第 1 原発を視察したが、豊かな自然と人びとの暮らしを破壊した原発事故にあらためて怒りを覚えた。「夜の森に咲く」を読み、再び怒りを覚えた。

(2018 年 10 月 11 日)